

横河電機株式会社

# 2020年3月期 第2四半期 決算説明会

**2019年11月5日**

## 1. 2020年3月期 第2四半期 連結決算の概要

取締役 専務執行役員 経営管理本部長 穴吹 淳一

## 2. 決算補足資料

四半期別実績／営業外・特別損益／受注残高

研究開発費・減価償却費・設備投資／貸借対照表／株価の状況

## 3. 現状認識と今後の見通し

代表取締役社長 奈良 寿

横河電機株式会社

# 2020年3月期 第2四半期 連結決算の概要

対象期間：2019年4月1日～2019年9月30日

**取締役 専務執行役員 経営管理本部長**  
**穴吹 淳一**

## ■ 第2四半期実績：引き続き堅調に推移

- ・サマリー : 受注・売上・営業利益いずれも堅調
- ・セグメント別 : 制御 増収増益 (除・為替影響 : 受注3.6%増、売上5.2%増、営業利益13.4%増)  
計測 増収減益 (受注・売上は堅調だが、先行投資による費用増)  
航機その他 減収・赤字縮小
- ・地域別 : 日本・中東の受注、インド・中東の売上が増加
- ・業種別 : ダウンストリーム、化学が堅調を維持

## ■ 通期業績予想：修正なし(為替レート：USD110円 EUR130円)

- ・リスク : 地政学リスク顕在化や貿易摩擦悪化による世界経済の減速、円高進行など

# 決算サマリー（前年同期比）

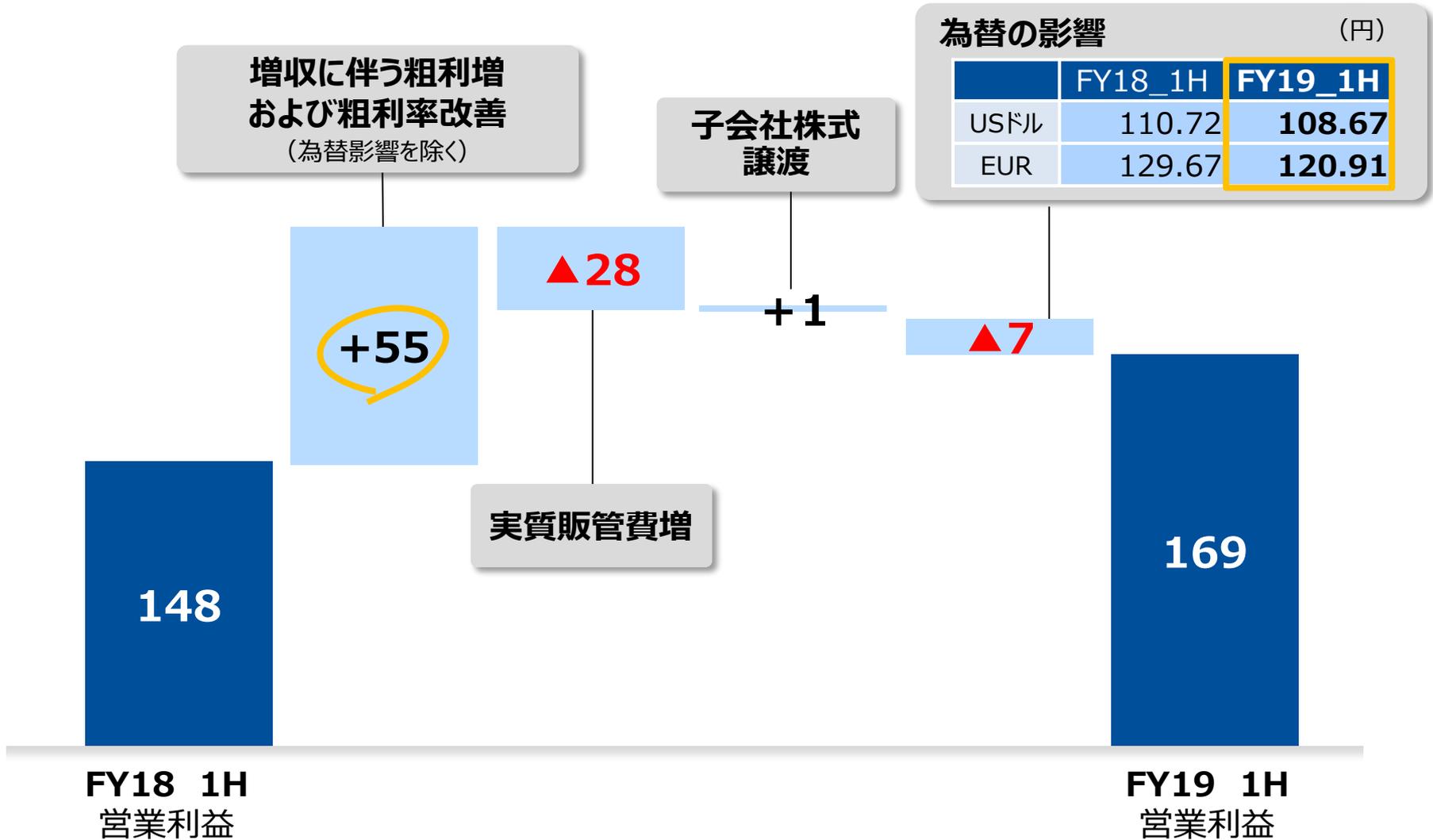
- ◆受注・売上 : 受注は**減少**（除・為替および子会社譲渡影響+3.9%）  
売上は**増収**（除・為替および子会社譲渡影響+6.1%）
- ◆営業利益 : 増収および粗利率の改善により、**増益**
- ◆四半期純利益 : **前年並み**

（億円）

	FY18_1H	FY19_1H	差異	増減率	為替および 子会社譲渡影響
受注高	2,137	<b>2,098</b>	▲39	▲1.8%	▲121
売上高	1,904	<b>1,914</b>	+10	+0.5%	▲105
営業利益	148	<b>169</b>	+21	<b>+14.3%</b>	▲6
ROS(%)	7.7	<b>8.8</b>	+1.1pt	-	-
経常利益	162	<b>170</b>	+8	<b>+5.1%</b>	▲6
親会社株主に帰属 する四半期純利益	101	<b>99</b>	▲2	▲2.7%	▲6
EPS(円)	37.96	<b>36.94</b>	▲1.02	▲2.7%	-
為替レート 1米ドル=	110.72円	<b>108.67円</b>	▲2.05	-	-

# 営業利益分析（前年同期比）

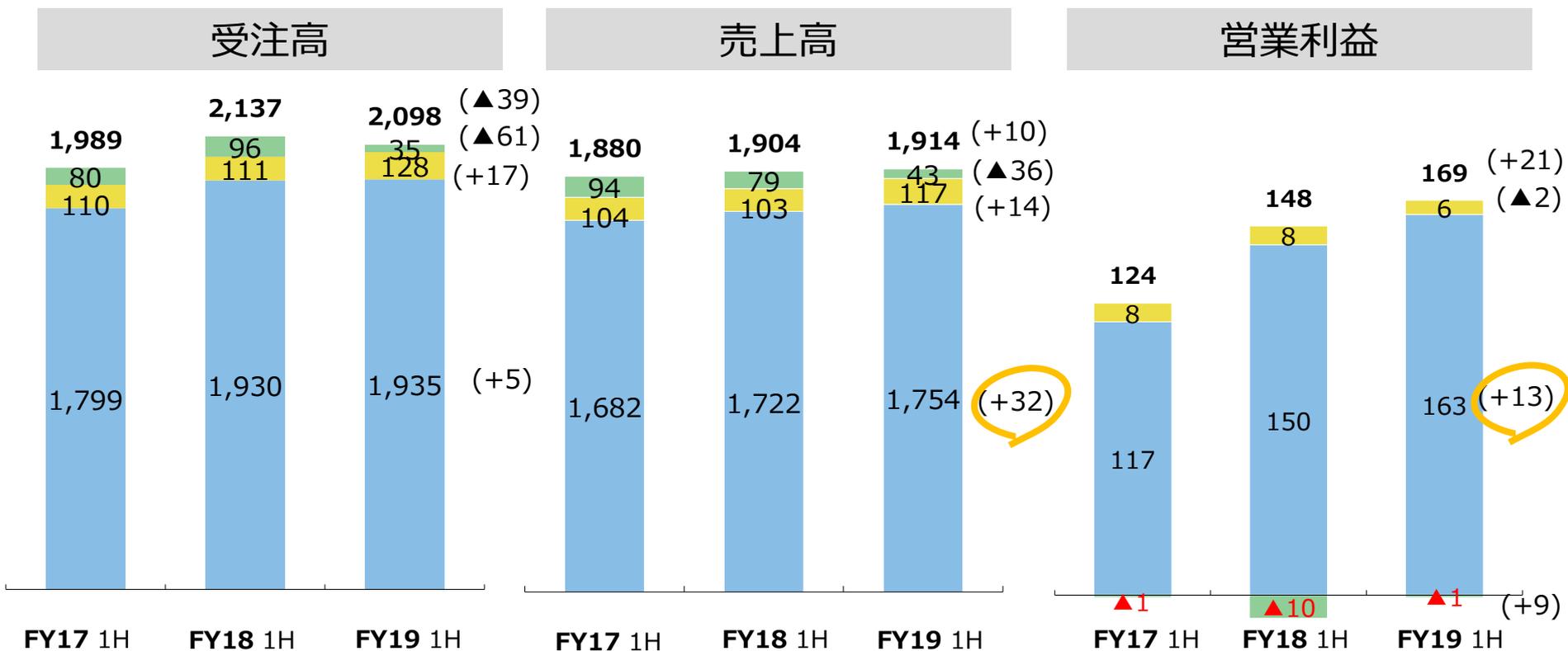
(億円)



# セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆制御事業 : 受注は日本と中東が堅調。売上は円高のなかで増収を確保  
(除・為替影響 : 受注+3.6%、売上+5.2%)  
営業利益は、増収に加え、粗利率改善により増益 (除・為替影響 : +20億円、+13.4%)
- ◆計測事業 : 受注売上は堅調だが、ライフイノベーション事業の先行投資などにより減益
- ◆航機その他事業 : 子会社譲渡の影響により減収だが、営業利益は赤字幅が縮小

制 御      計 測      航機その他      (億円)



# 制御地域別 受注・売上高

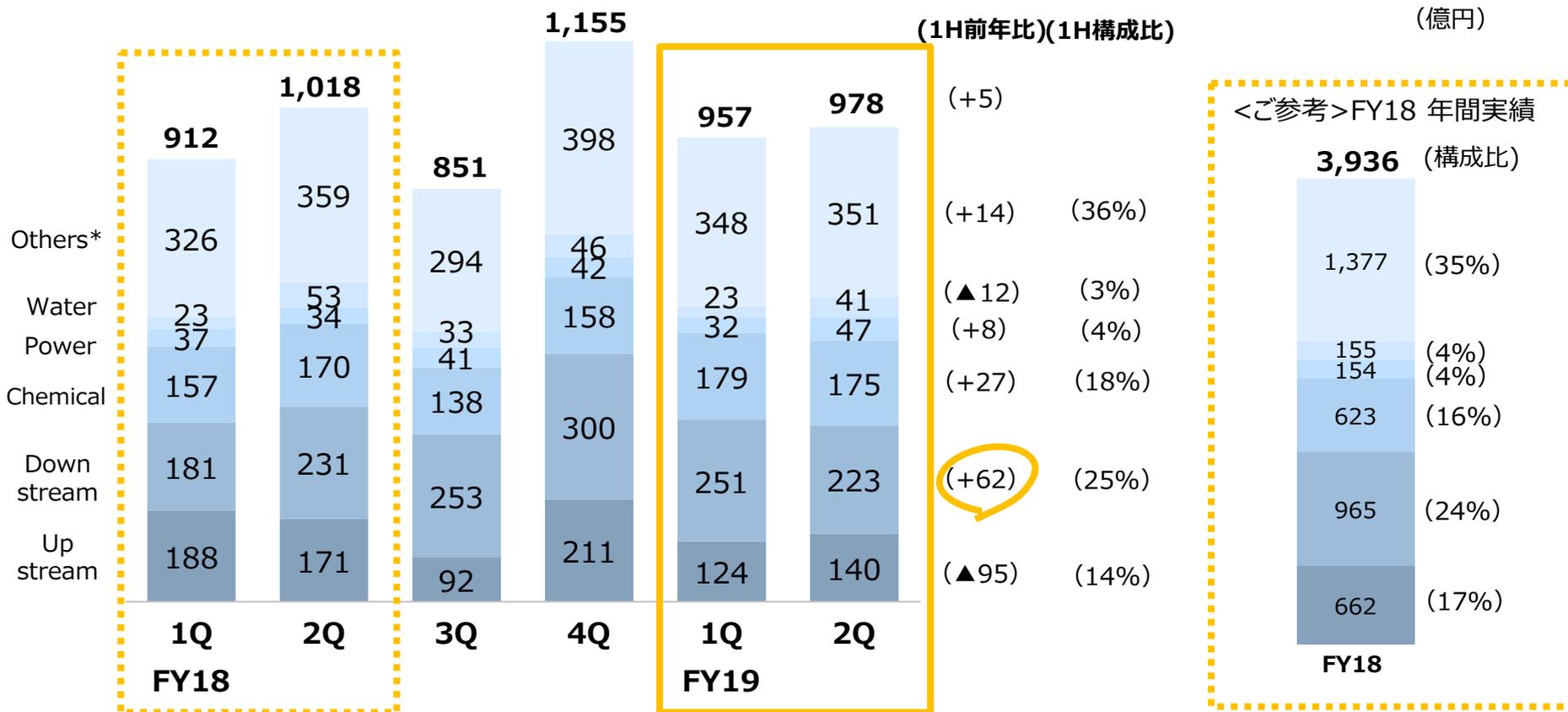
- ◆受注：日本・中東が増加、前年大口の反動や円高の影響もあり、アジア・欧州・CISは減少（除・為替影響：+3.6%増）
  - ◆売上：円高のなかで、インド・中東が増加（除・為替影響：+5.2%増）
- （億円）

受注高	FY18_1H (A)	FY19_1H (B)	前年同期比 (B-A)
日本	540	573	33
アジア	654	631	▲23
(東南アジア・ 極東)	(338)	(306)	(▲32)
(中国)	(235)	(239)	(4)
(インド)	(81)	(86)	(5)
欧州・CIS	280	241	▲39
中東アフリカ	267	285	18
北米	148	153	5
中南米	41	52	11
海外小計	1,390	1,362	▲28
合計	1,930	1,935	5
為替レート 1米ドル=	110.72円	108.67円	▲ 2.05円

売上高	FY18_1H (A)	FY19_1H (B)	前年同期比 (B-A)
日本	485	496	11
アジア	581	576	▲5
(東南アジア・ 極東)	(321)	(304)	(▲17)
(中国)	(208)	(199)	(▲9)
(インド)	(52)	(73)	(21)
欧州・CIS	242	245	3
中東アフリカ	235	251	16
北米	146	143	▲3
中南米	34	43	9
海外小計	1,237	1,258	21
合計	1,722	1,754	32
為替レート 1米ドル=	110.72円	108.67円	▲ 2.05円

# 制御業種別 受注高

◆ Downstream、化学が堅調を維持

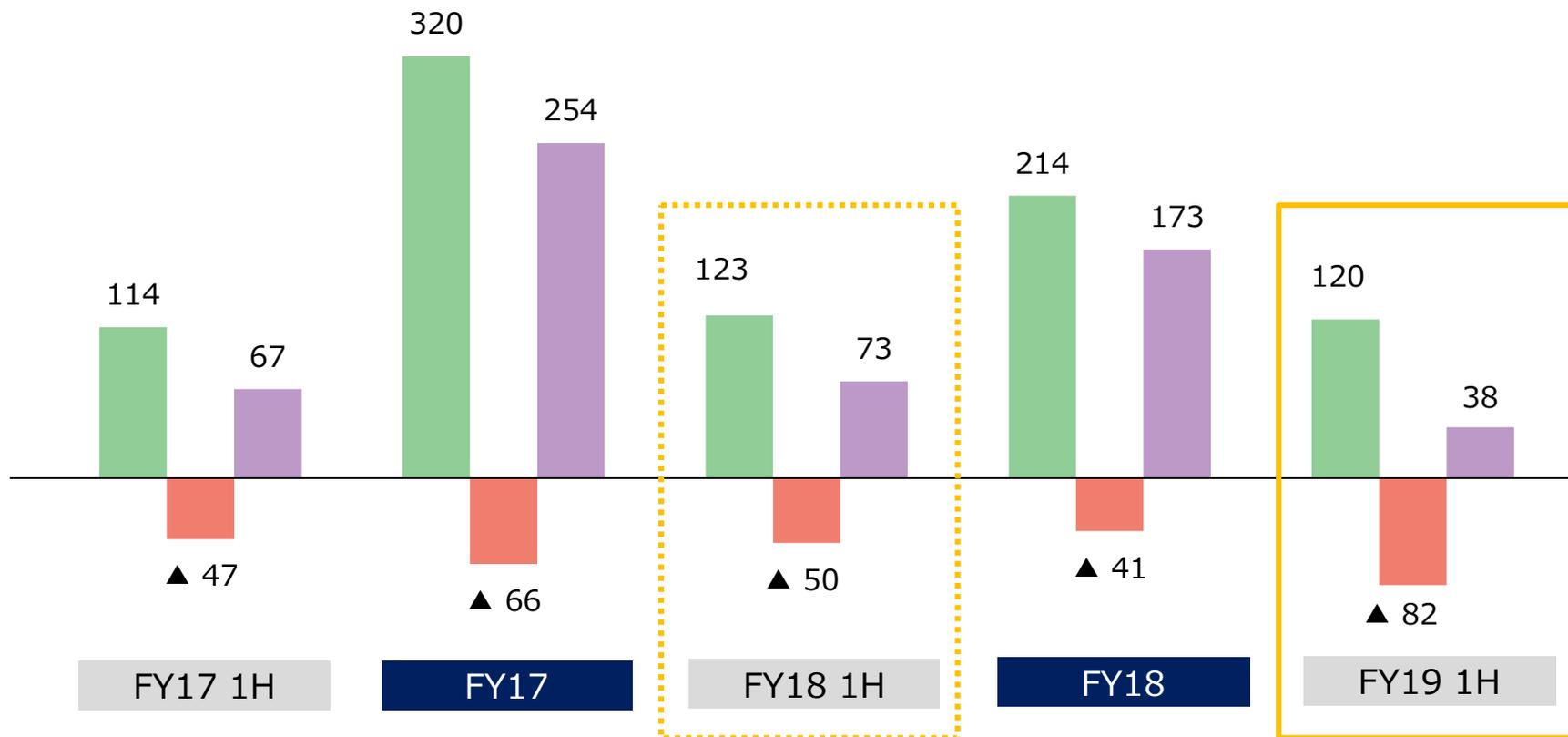


\*Othersの主な業種 : Pharma Food、ELECTRICAL & ELECTRONIC、IRON & STEEL、PULP & PAPER ほか  
 なお、業種区分を精緻化してFY18数字を見直しました

# キャッシュ・フロー

(億円)

■ 営業CF ■ 投資CF ■ FCF

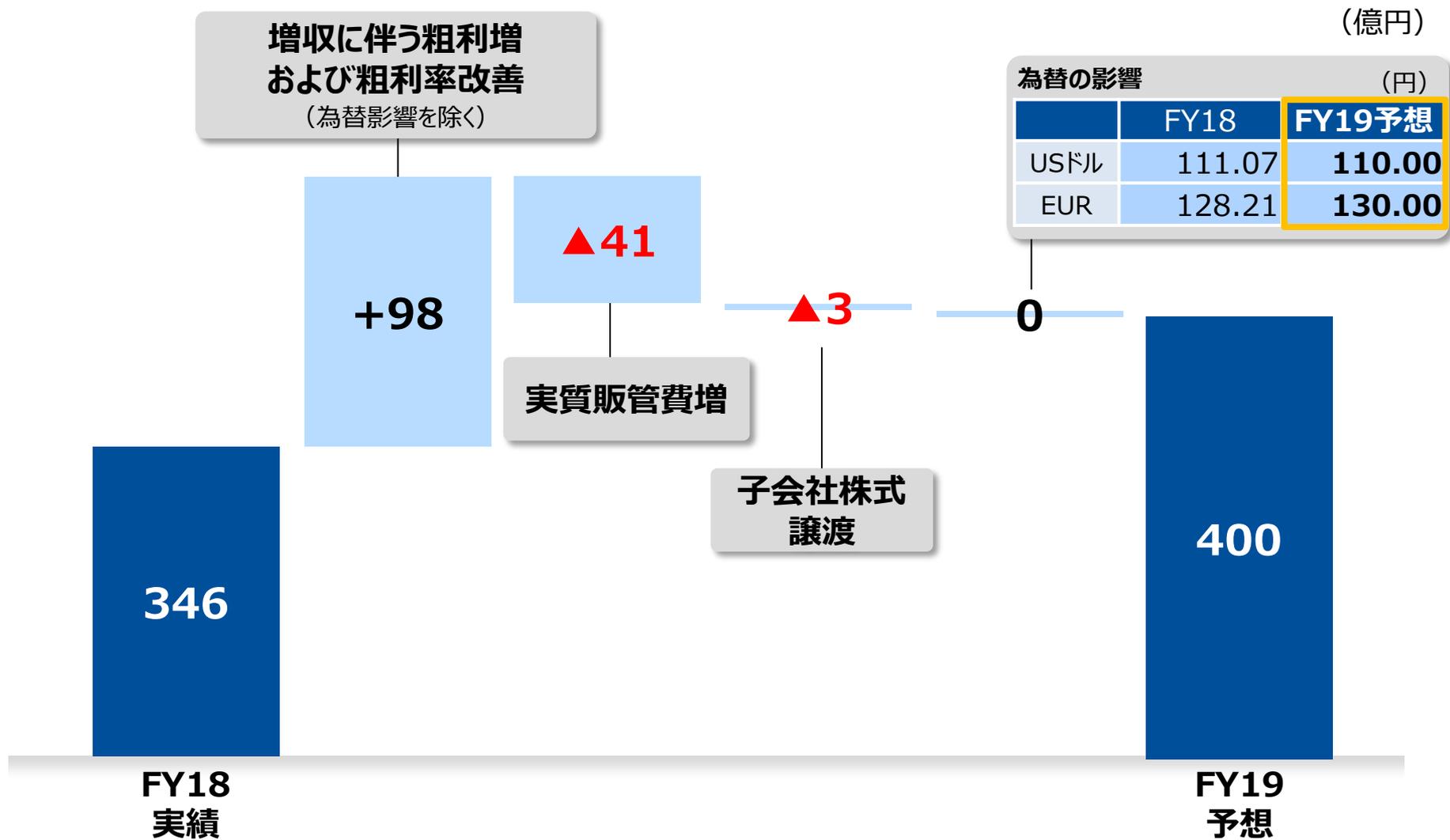


# 業績予想（変更なし）

(億円)

	FY17 実績(A)	FY18 実績(B)	FY19 予想(C)	前年比 (C-B)	伸長率 (C÷B-1)	
受注高	4,003	4,320	<b>4,300</b>	▲20	▲0.5%	
売上高	4,066	4,037	<b>4,200</b>	+163	+4.0%	
営業利益	327	346	<b>400</b>	+54	+15.6%	
ROS(%)	8.0	8.6	9.5	+0.9pt	—	
経常利益	333	368	<b>400</b>	+32	+8.8%	
税引前利益	294	384	<b>400</b>	+16	+4.2%	
法人税等	79	100	110	+10	+10.0%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	214	284	<b>290</b>	+6	+1.9%	
EPS(円)	80.27	106.54	<b>108.64</b>	+2.10	+2.0%	
為替レート	1米ドル=	110.70円	111.07円	<b>110円</b>	▲1.07円	—

# 営業利益増減要因（変更なし）



# セグメント別 受注・売上・営業利益（変更なし）

- ◆ 制御事業 : 高水準の受注残高を背景に**増収増益**の見通し
- ◆ 計測事業 : ほぼ前年並みの見通し
- ◆ 航機その他事業 : 子会社譲渡影響等により受注・売上は減少見通しだが、損失は改善を見込む

制 御

計 測

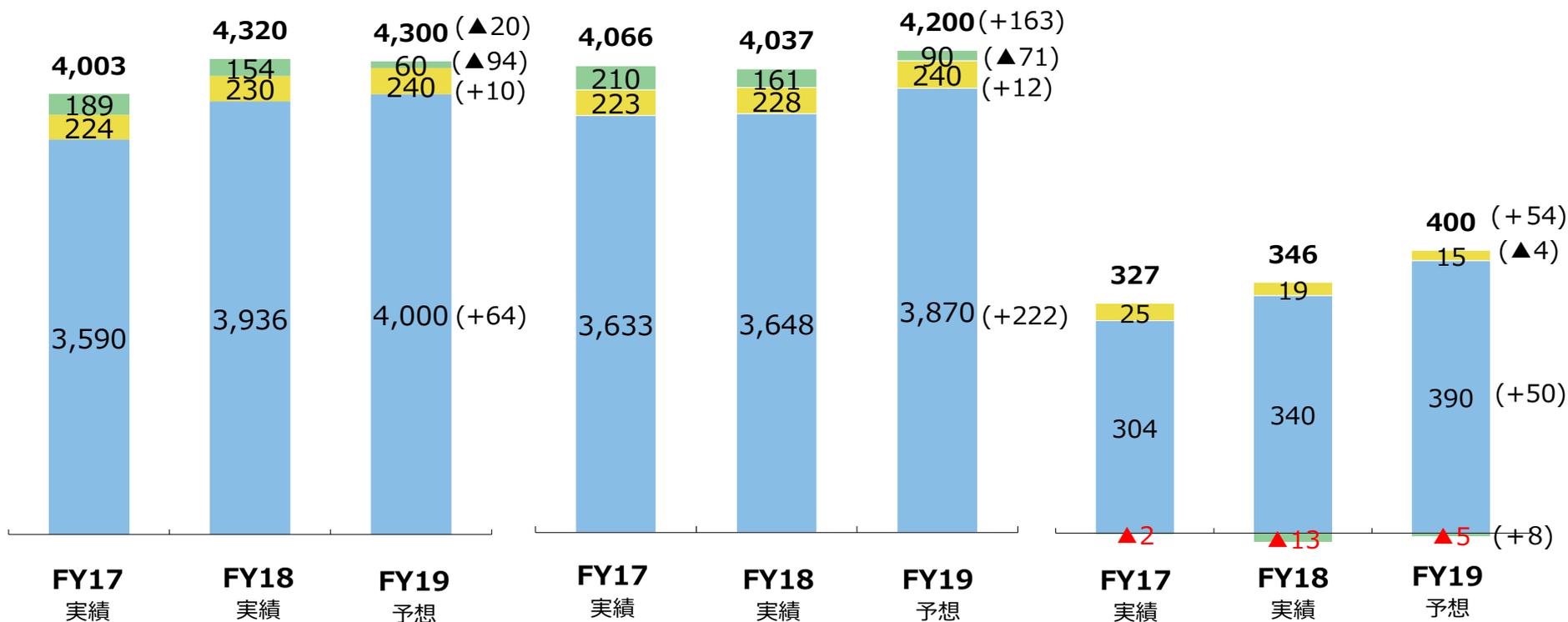
航機その他

(億円)

受注高

売上高

営業利益



# 制御地域別 受注・売上高（変更なし）

(億円)

受注高	FY18 実績 (A)	FY19 予想 (B)	前年比 (B-A)
日本	1,114	1,120	6
アジア	1,245	1,290	45
(東南アジア・ 極東)	(643)	(660)	(17)
(中国)	(426)	(440)	(14)
(インド)	(176)	(190)	(14)
欧州・CIS	532	550	18
中東アフリカ	567	590	23
北米	382	350	▲32
中南米	96	100	4
海外小計	2,822	2,880	58
合計	3,936	4,000	64
為替レート 1米ドル=	111.07円	110円	▲ 1.07円

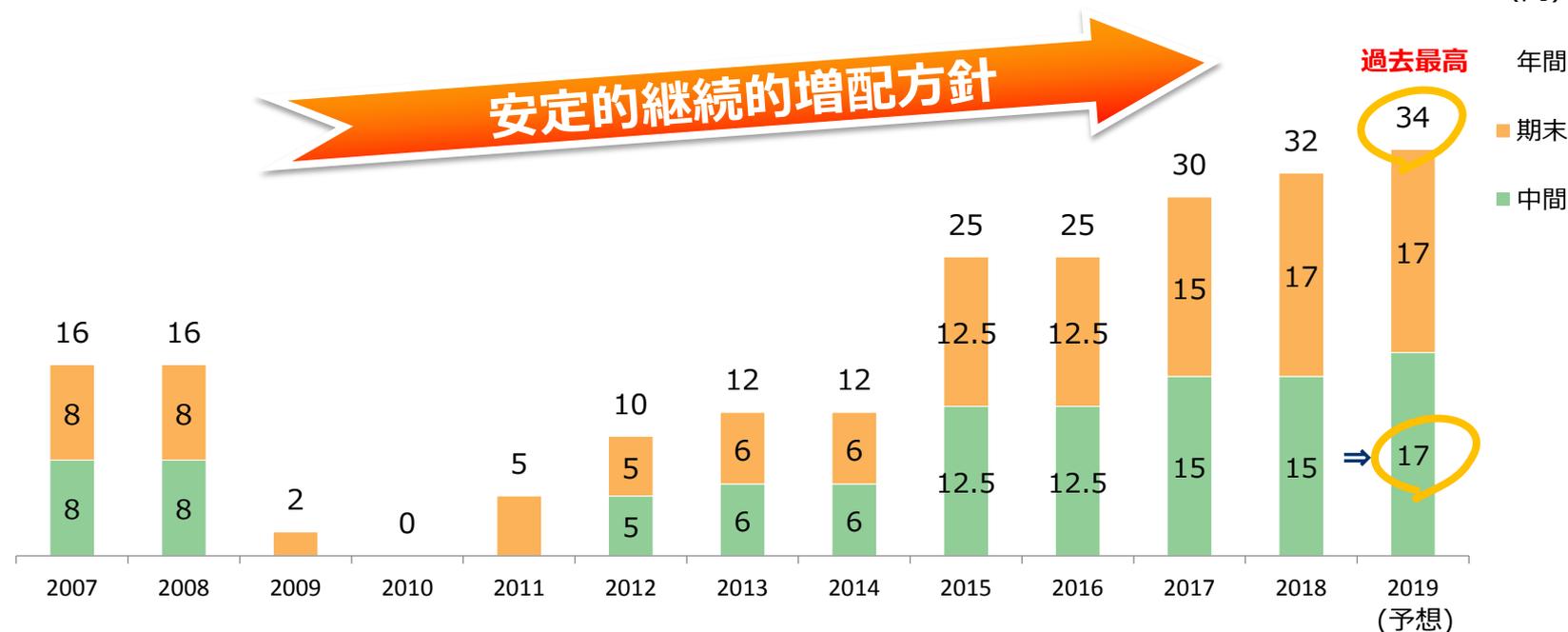
売上高	FY18 実績 (A)	FY19 予想 (B)	前年比 (B-A)
日本	1,094	1,120	26
アジア	1,203	1,260	57
(東南アジア・ 極東)	(673)	(660)	(▲13)
(中国)	(405)	(420)	(15)
(インド)	(125)	(180)	(55)
欧州・CIS	495	510	15
中東アフリカ	490	570	80
北米	285	320	35
中南米	81	90	9
海外小計	2,554	2,750	196
合計	3,648	3,870	222
為替レート 1米ドル=	111.07円	110円	▲ 1.07円

## <変更なし> 中間配当金を2円増配で決議 (15円⇒17円) 年間配当金は過去最高を連続更新予定

**FY18 : 32円(配当性向30.0%)**

**FY19 : 34円(配当性向31.3%)**

(円)



# 決算補足資料

- ・四半期別実績
- ・営業外・特別損益
- ・受注残推移
- ・研究開発費・減価償却費・設備投資
- ・貸借対照表
- ・株価の状況

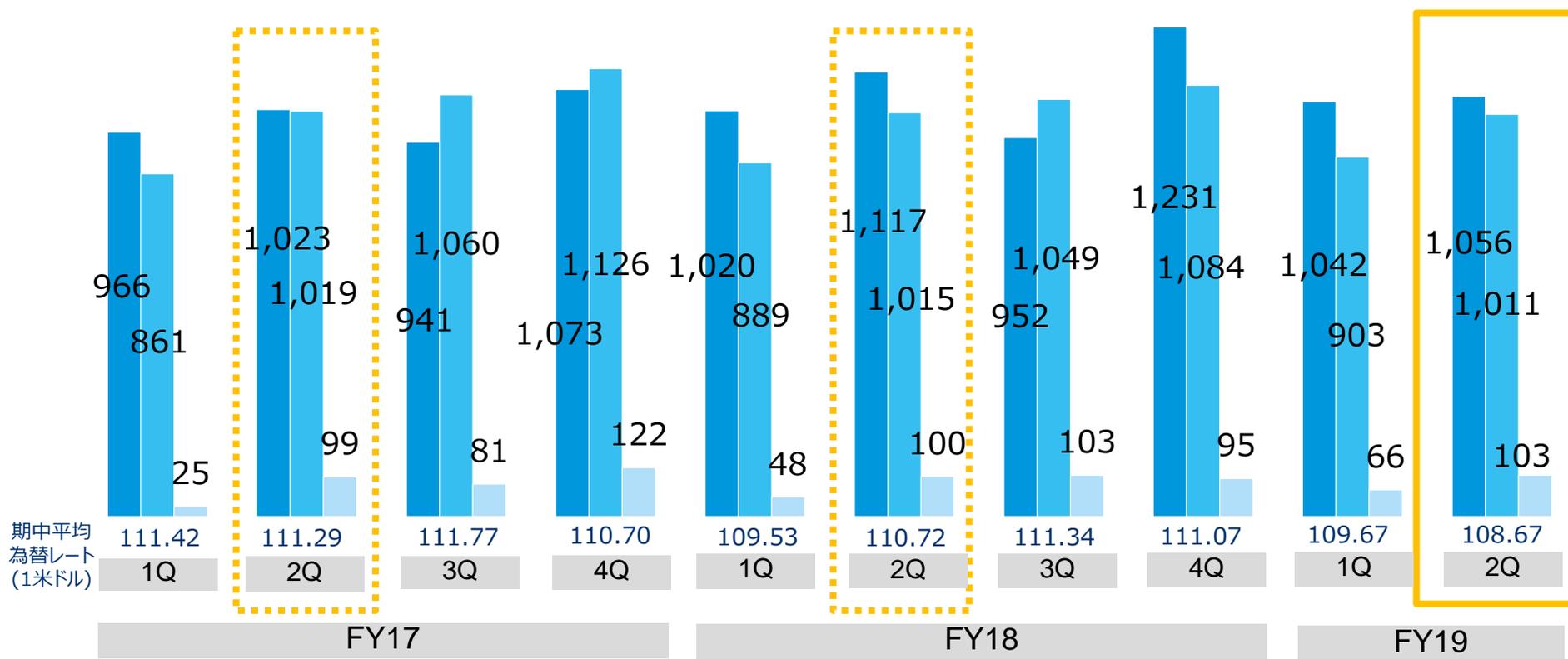
# 補足：四半期別実績

◆売上高・営業利益は、日本の制御事業を中心に2Qおよび4Qに集中傾向

※FY18決算において譲渡した子会社の実績(航機その他セグメント)  
 FY18 1H 受注：52億円 売上：43億円 営業利益：▲1億円  
 FY18年間 受注：78億円 売上：77億円 営業利益：3億円

■ 受注 ■ 売上 ■ 営業利益

(億円)



# 補足：営業外・特別損益

(億円)

	FY18_1H 実績	FY19_1H 実績
営業利益	148	169
営業外収益	20	19
営業外費用	5	18
経常利益	162	170
特別利益	5	24
特別損失	1	32
税引前利益	165	162
法人税等	64	63
親会社株主に帰属する 四半期純利益	101	99

FY19: 為替差損 8億円

FY19: 投資有価証券等売却益 15億円  
事業譲渡益 8億円

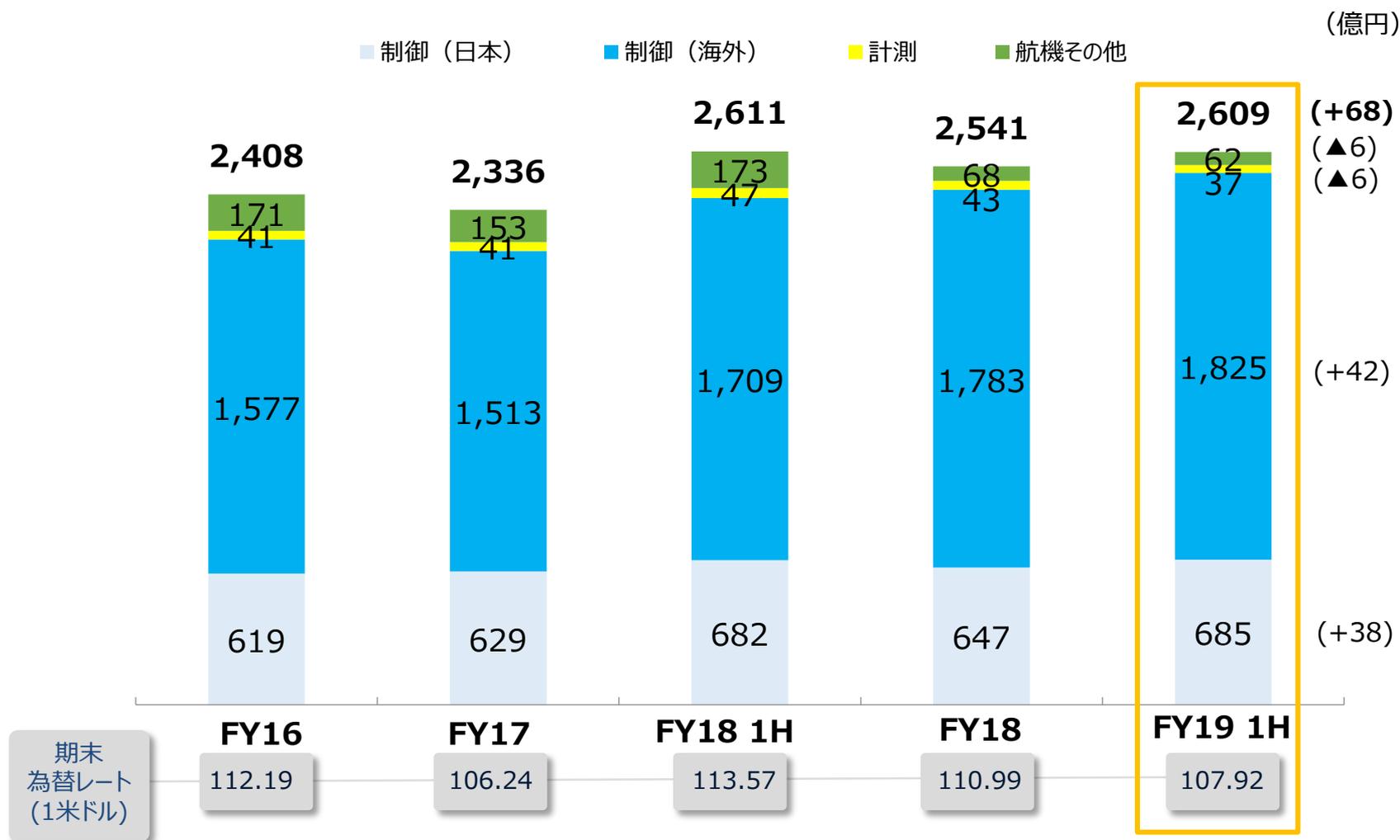
FY19: ソフトエラー対策強化引当金  
繰入額 30億円

(税負担率)

33.0%

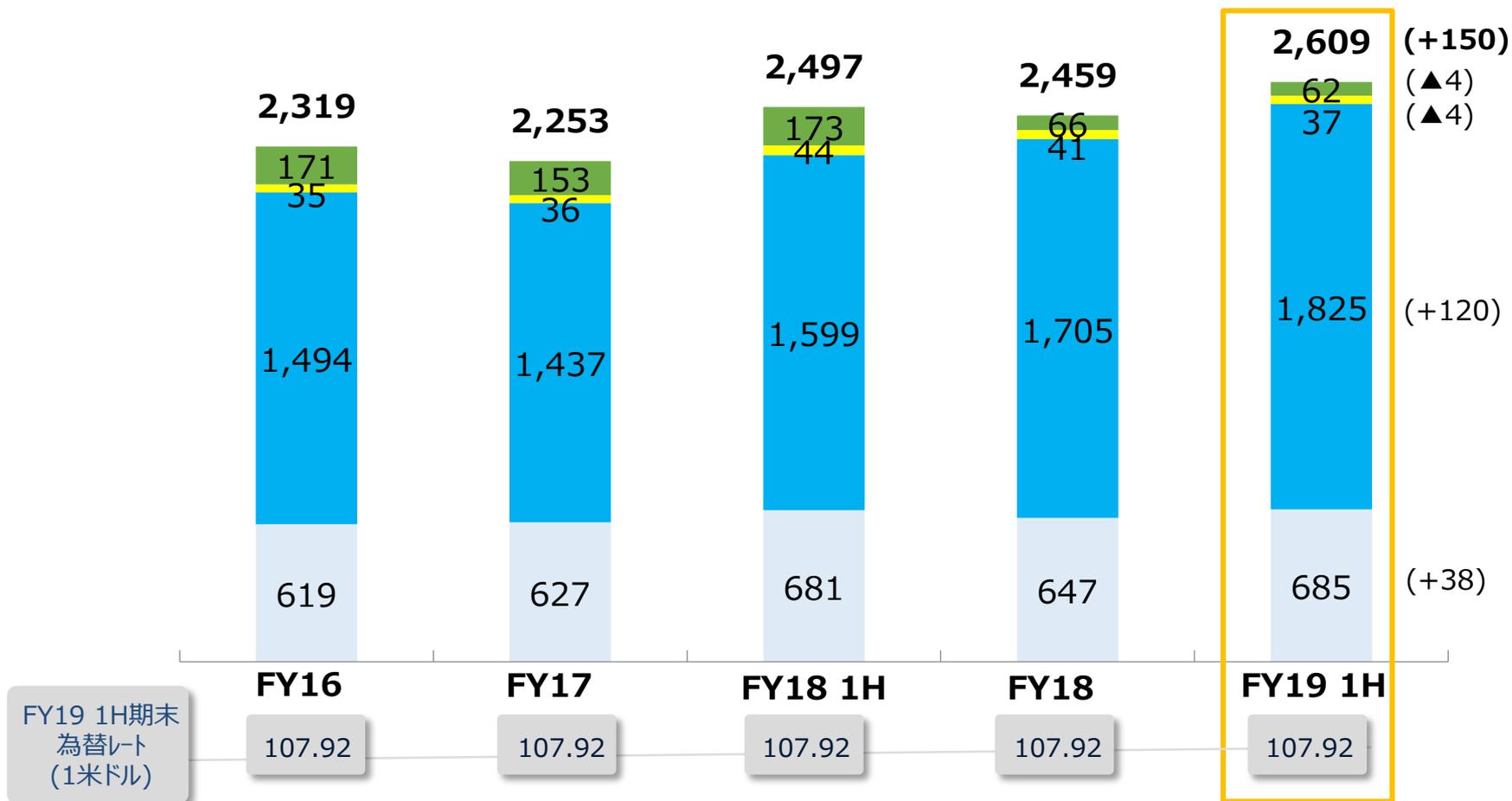
33.5%

# 補足：セグメント別 受注残推移



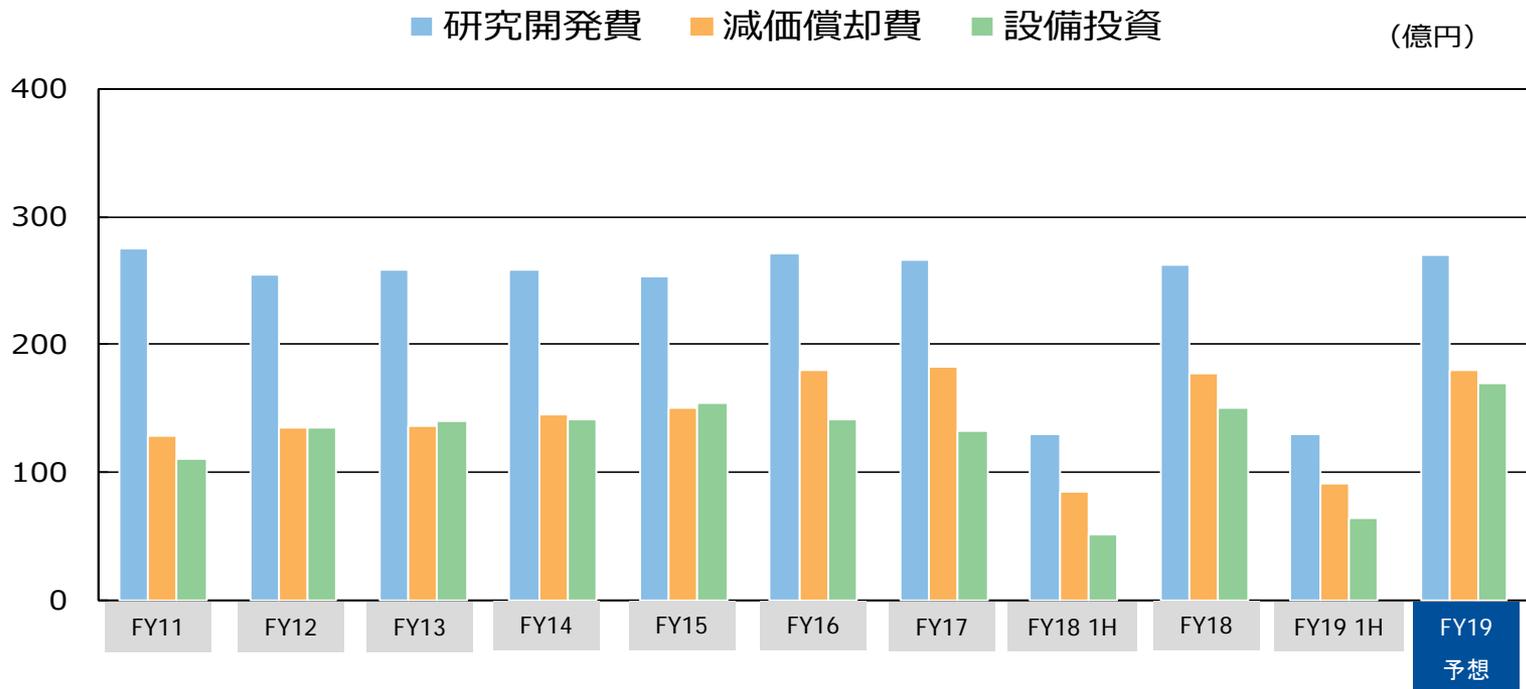
# 補足：セグメント別 受注残推移 \*FY19 1H期末為替レート換算

■ 制御（日本） ■ 制御（海外） ■ 計測 ■ 航機その他 (億円)



# 補足：研究開発費・減価償却費・設備投資

◆FY19設備投資は中期計画戦略投資を前提に微増見込み

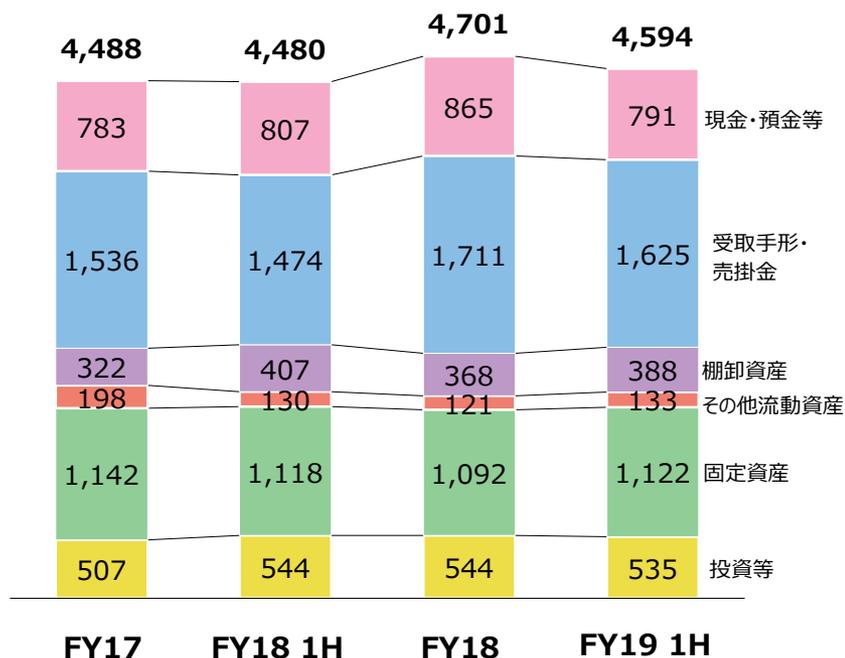


	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18 1H	FY18	FY19 1H	FY19 予想
研究開発費 (対売上高比率)	275 8.2%	255 7.3%	258 6.6%	258 6.4%	253 6.1%	271 6.9%	266 6.5%	130 6.8%	262 6.5%	130 6.8%	270 6.4%
減価償却費 (対売上高比率)	128 3.8%	135 3.9%	136 3.5%	145 3.6%	151 3.6%	180 4.6%	183 4.5%	85 4.5%	177 4.4%	92 4.8%	180 4.3%
設備投資 (対売上高比率)	111 3.3%	135 3.9%	140 3.6%	141 3.5%	154 3.7%	142 3.6%	132 3.2%	51 2.7%	150 3.7%	64 3.4%	170 4.0%

# 補足：貸借対照表

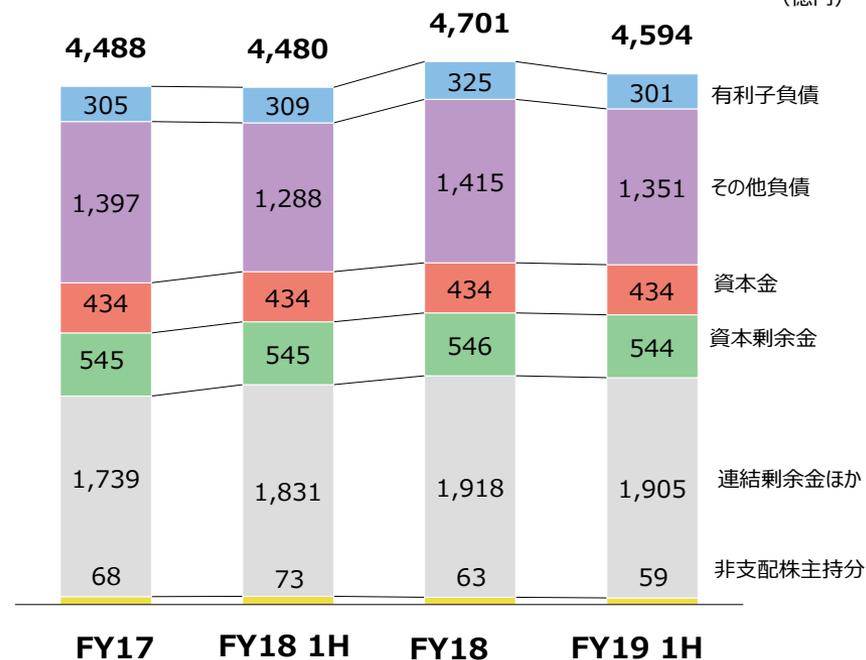
## 資産

(億円)



## 負債・資本

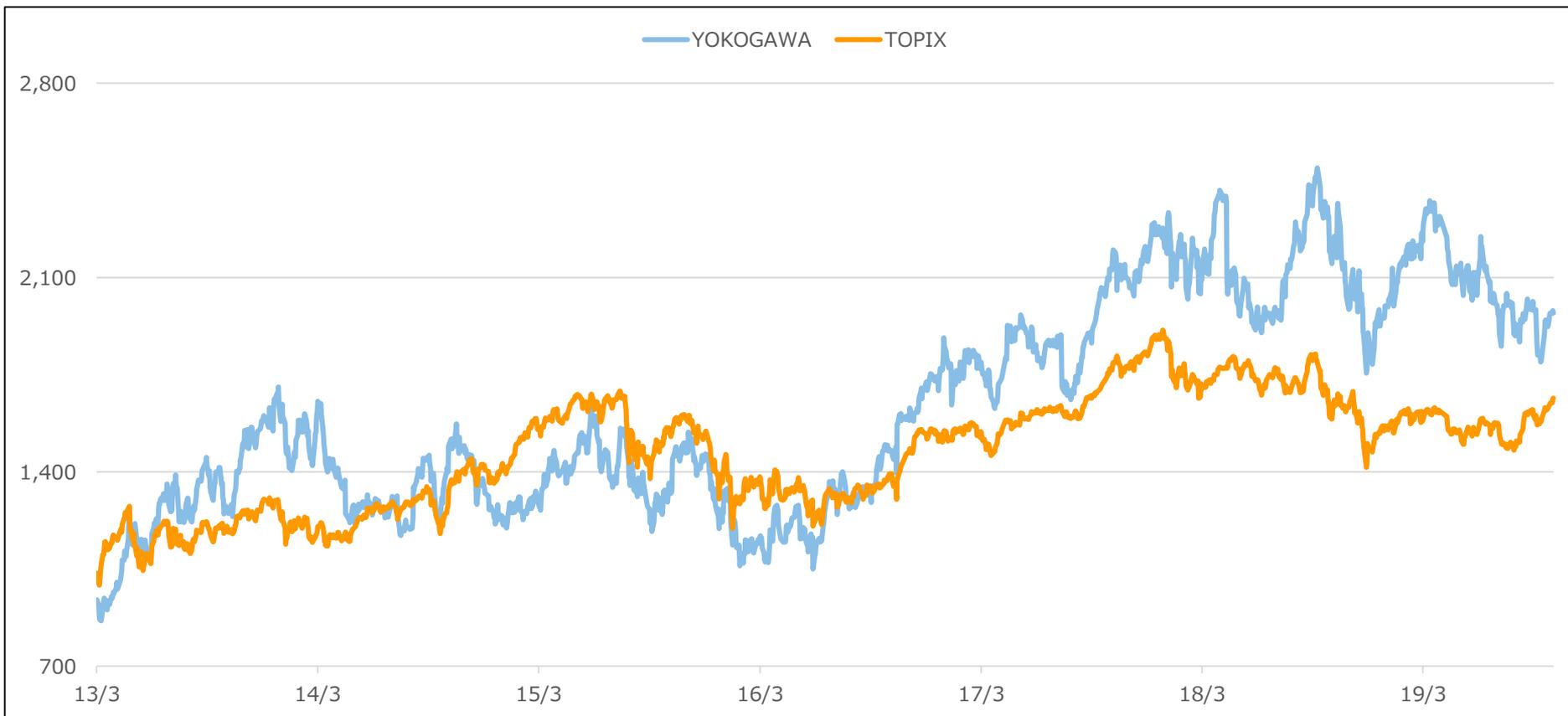
(億円)



### IFRS第16号（リース）適用による影響（対FY18）

（借）有形固定資産その他 +78億円 （貸）その他流動負債 +19億円  
 その他固定負債 +58億円

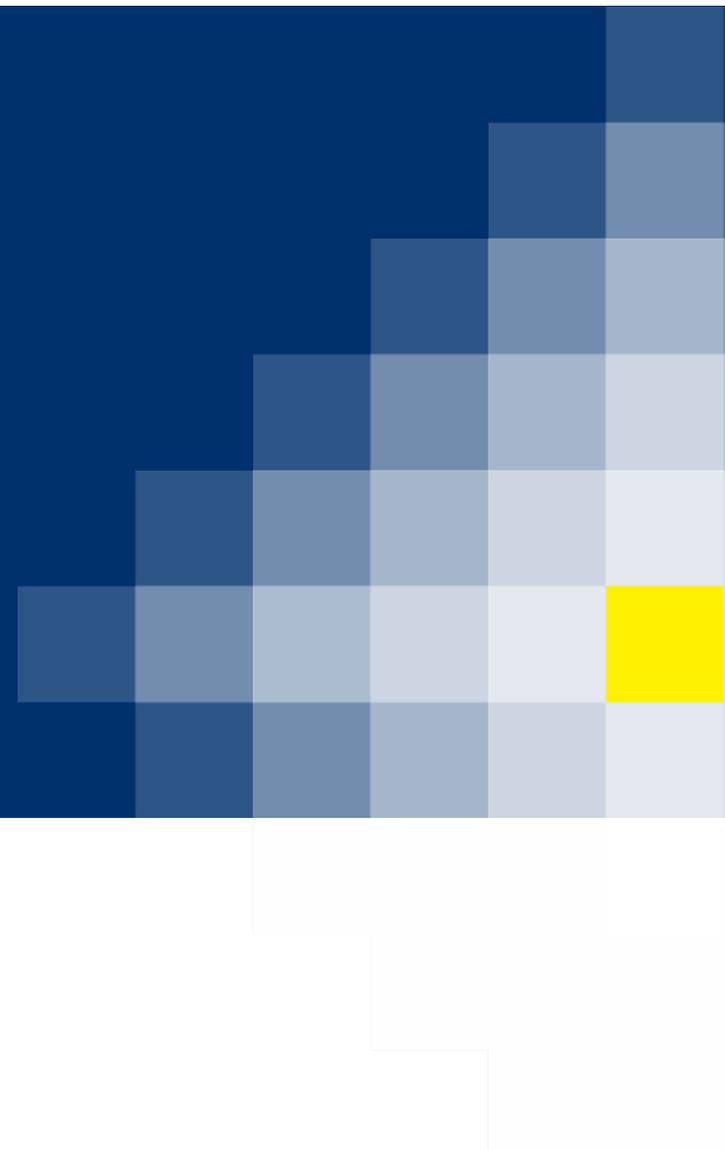
# 補足：株価の状況



(円)

	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	19/6	19/9	19/10/30
Yokogawa	946	1,667	1,295	1,163	1,752	2,198	2,291	2,112	1,977	1,972
TOPIX	1,035	1,203	1,543	1,347	1,512	1,716	1,592	1,551	1,588	1,666

Co-innovating tomorrow™



横河電機株式会社

2020年3月期 第2四半期決算

現状認識と今後の見通し

*Transformation 2020*

代表取締役社長

奈良 寿

2019年11月5日

1. 現状認識  
(外部環境、リスクと機会)
2. 中期経営計画 Transformation 2020の取り組み  
(略称：TF2020)
3. 今後の見通し
4. 参考資料

# 外部環境（リスクと機会） <追記更新>

- ①機会増 : 低炭素なエネルギーへのシフト加速(LNGなど)
- ②リスクと機会の両面 : 現地化ニーズの増加

## <外部環境の変化>

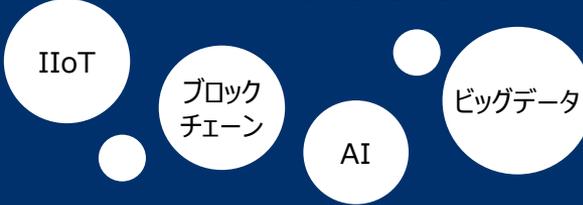
### エネルギー資源の位置付け変化



### 社会課題解決に向けた ニーズの高まり



### デジタル技術革新



<追記>  
現地化  
ニーズ



## <YOKOGAWAの強み>

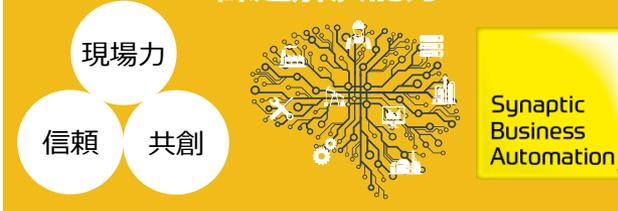
### 多様な業種ノウハウ



### アジア・中東を中心とした豊富な インストールベース



### 課題解決能力



# 現状認識

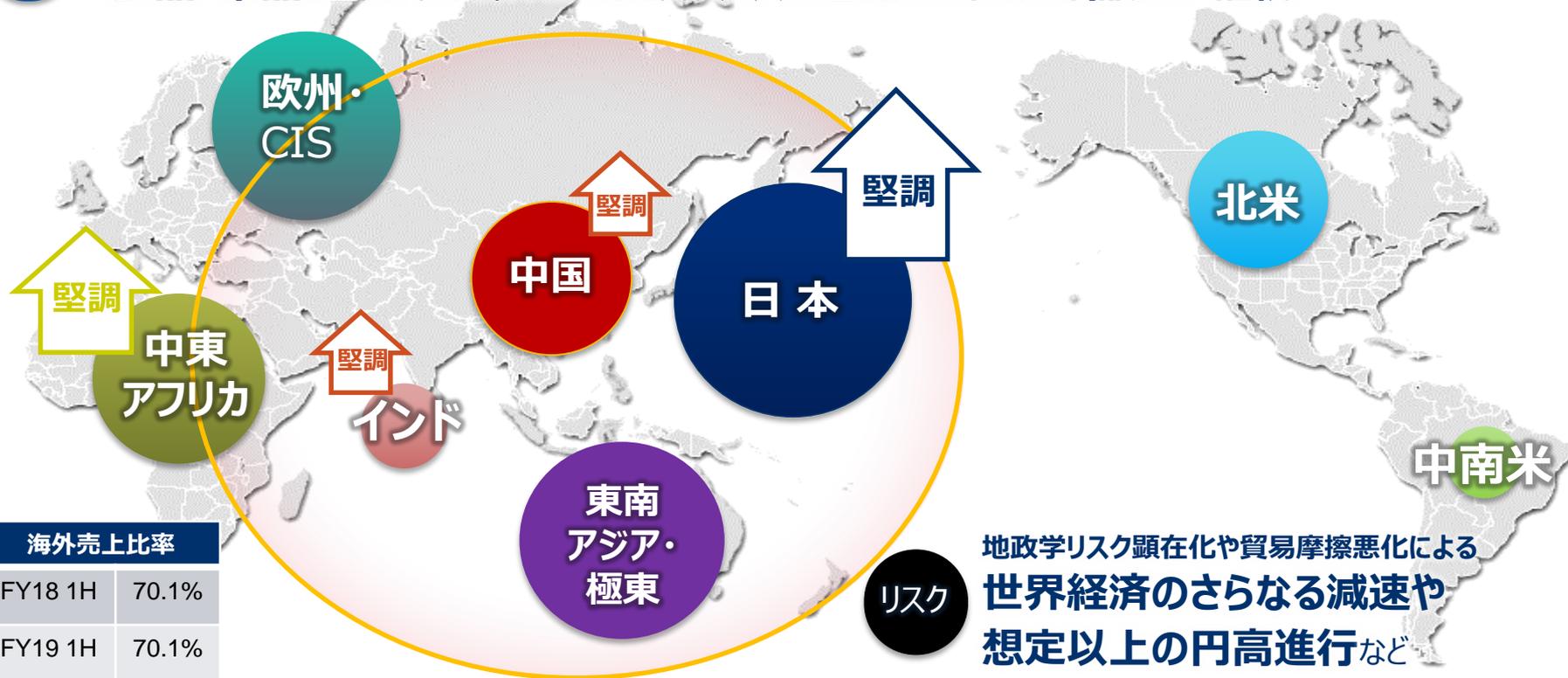
景気減速が懸念されるなかで、生産性向上・環境対応関連などのOPEX需要は堅調、社会課題解決に向けたエネルギーシフトなどもあり、CAPEXに投資の動き

地域

偏りが無い地域構成：日本・中東の受注、インドの売上が堅調、北米は機会に注目

業種

得意なダウンストリーム、化学は堅調継続、背景にOil to Chemicalなどのニーズもあり  
食品・薬品も堅調、低炭素のLNGを含むガス関連は長期視点で需要が継続

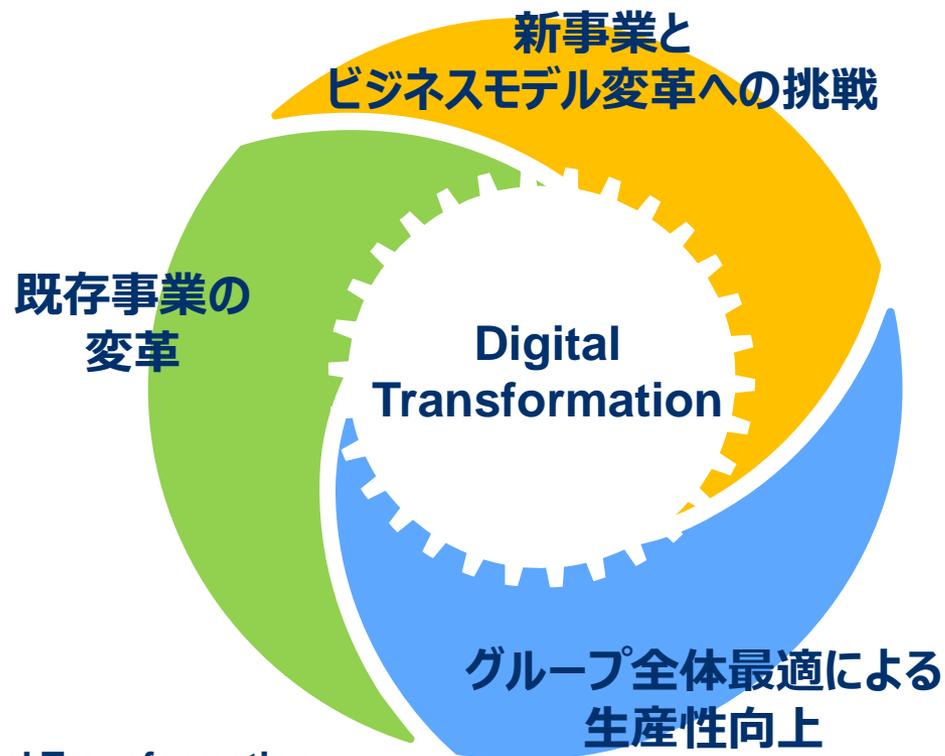


# Transformation 2020 の取り組み

- ・ 3つの基本戦略
  - ① 既存事業の変革
  - ② 新事業とビジネスモデル変革への挑戦
  - ③ グループ全体最適による生産性向上
- ・ デジタルトランスフォーメーション

「成長機会の創出」と「成長基盤の確立」

## 持続可能社会を実現する事業を目指して変革



- お客様と共に生産性革命を実現
  - OPEXビジネスの拡大
  - 注力業種のさらなる強化
- イノベーションを通じ、サステナブルな価値を創造
  - ライフイノベーション事業確立
  - リカーリングビジネス確立
- 経営効率の飛躍的な向上
  - コスト競争力強化
  - リソース最適化

### Digital Transformation

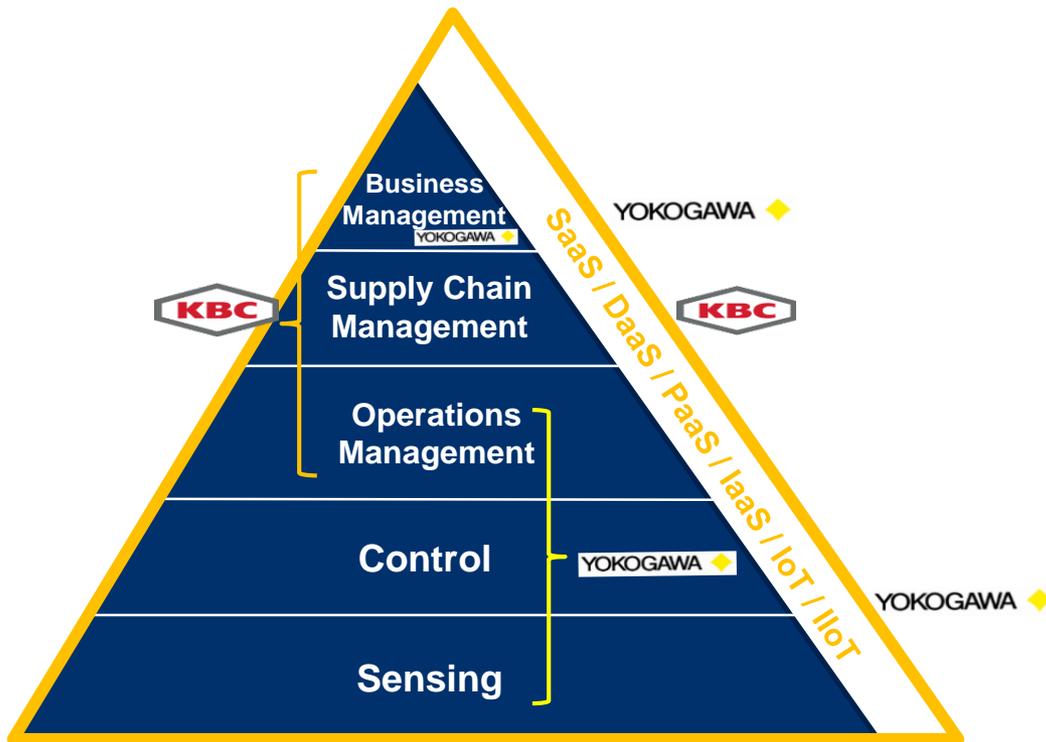
- デジタルビジネスの実現
- 業務プロセス変革
- ITインフラの強化

# 戦略への取り組み：3つの基本戦略

戦略	目標	主な活動状況
 <p>既存事業の 変革</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストールベースを中心としたOPEXビジネスの拡大 海外OPEX成長率：7～10%/年</li> <li>・注力業種（化学、再生可能エネルギー）のさらなる強化 注力業種成長率：3～5%/年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英国RAP社の買収</li> <li>・OpreX™ブランドのラインナップ拡充</li> <li>・東南アジアの製造業向けにERPソリューション提供開始</li> <li>・オランダExRobotics B.V.社と協業</li> <li>・三井化学様とのプラント安全運転協業</li> <li>・機能性化学向け営業強化(中国、北米)</li> <li>・化学肥料向けビジネス強化(インド)</li> </ul>
 <p>新事業と ビジネスモデル変革 への挑戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフイノベーション事業の確立 新事業FY20受注：2～3倍(FY17比) *医薬品・食品産業向け受注 *FY17実績：120億円程度</li> <li>・リカーリング型ビジネスモデル確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1細胞解析ソリューション向けビジネスの立ち上げに注力</li> <li>・人的リソースの拡充</li> <li>・フィンランドのSensireに資本参加</li> <li>・アムニモ(株)がサービス提供開始 IIoTアーキテクチャの活用に注力 </li> </ul>
 <p>グループ 全体最適による 生産性向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的コストダウン (生産、調達、エンジ)</li> <li>・グループ構造最適化</li> <li>・人財力強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調達、物流コスト最適化</li> <li>・グローバルデリバリーセンター*の活用拡大</li> <li>・RPA導入による業務効率化</li> <li>・YOKOGAWA University活用</li> </ul> <p>*旧セントラル・エンジニアリングセンター</p>



プロセスの最適化、バリューチェーン全体での自動化・最適化、  
リスク低減、効率化などを実現



## 〈アジアでのシナジー実績〉

### ①リファイナリ

: コンサルティング実施  
 → 成果によりDCS更新JOB  
 を新規獲得

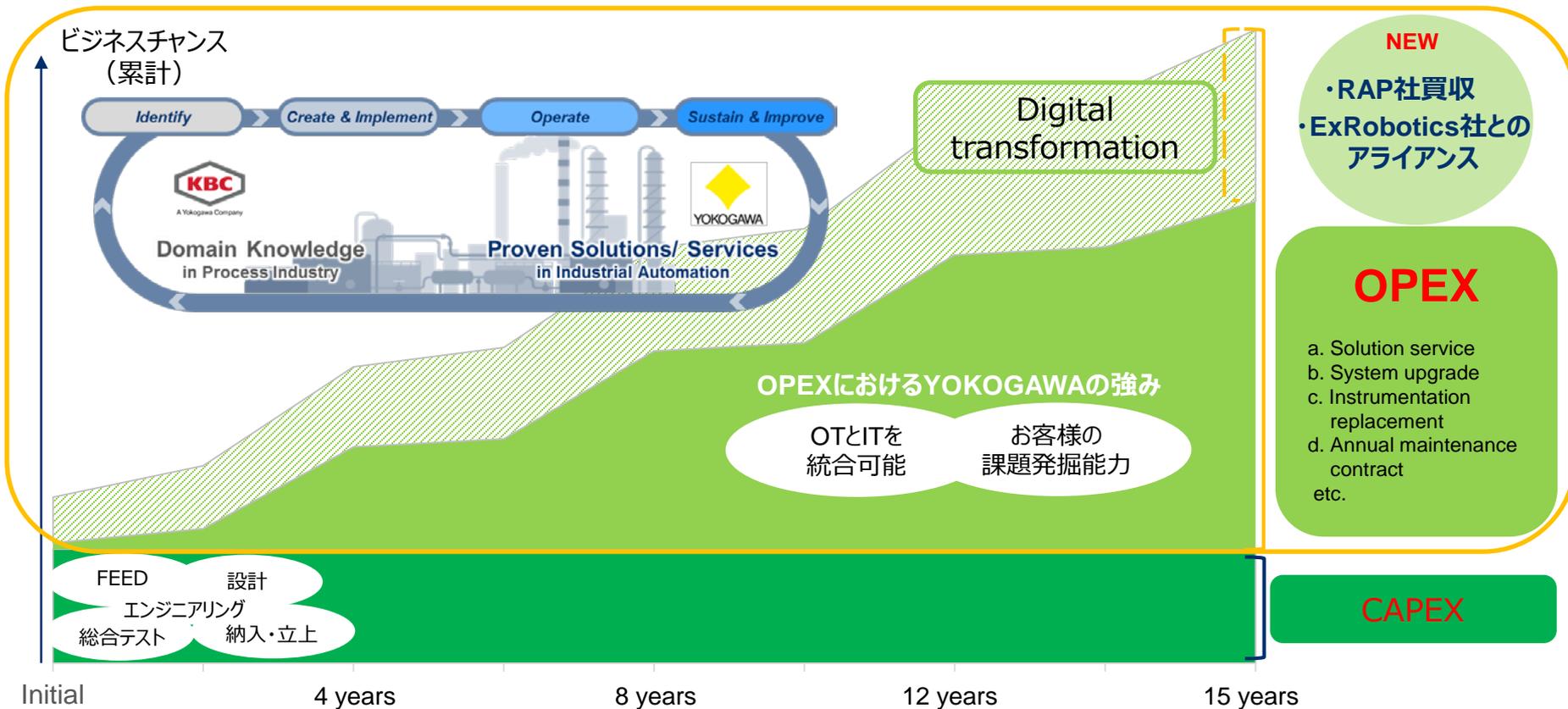
### ②化学

: お客様のオペレーション伝承  
 の課題をデジタル化で解決  
 → AI分野で協業を提案中



# CAPEXとOPEXのバランスで持続的成長（イメージ事例）

- ・**軸足は長期にわたるOPEX**（＝積み上げ型ビジネス）
  - ➔ M&Aやアライアンスを戦略的に活用し、サービスビジネスを拡大
- ・CAPEXは変動するが、**継続的OPEX受注**のためチャレンジが必要不可欠



プラントライフサイクルのなかで、長期にサポートと提案を繰り返していく



# ライフソリューションビジネスの活動進捗

日本の食品・薬品を中心にビジネス範囲を拡大中

基礎研究

応用研究

開発

量産

物流・サービス

医薬品・食品

## ● ライフサイエンス **過去最高水準の実績**



共焦点スキャナユニット  
CSU-W1 SoRa



ハイスループット  
細胞機能探索システム  
CV8000



共焦点定量  
イメージサイトメーター  
CQ1

## ● バイオ抗体薬生 産ソリューション

→ **開発加速**



## ● 再生医療向け 統合品質管理 ソリューション

## ● 微生物コンタミ管理ソリューション

● 中途採用を含めたリソースの拡充

## ● 生産ソリューション

日本の食薬向けも  
過去最高水準の  
実績

- 品質管理
- 生産管理
- 製造管理
- 保安全管理
- プロセス制御
- フィールド機器



薬品・食品産業向けMES/パッケージ

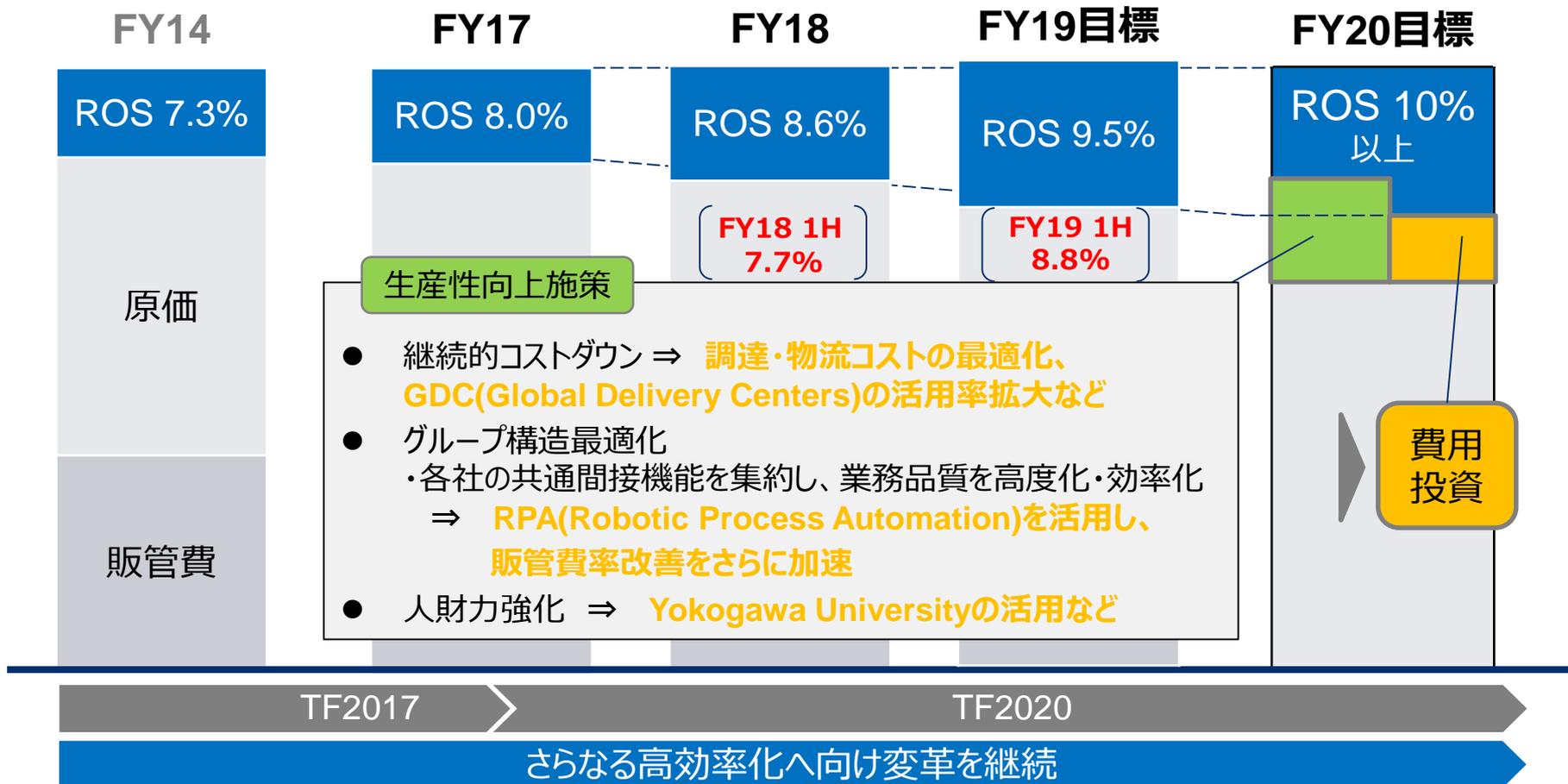
→ **日本の知見を海外に展開加速**

校正・バリデーション (2018年12月 : エヌケイエス社 買収)

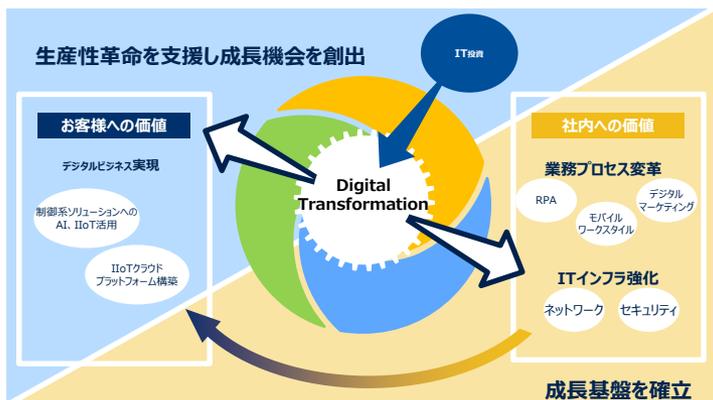
M&A・アライアンス

・アルガエナジー社(スペイン)に資本参加

## 成長基盤確立のため、生産性向上活動は着実に進捗 構造最適化の実質効果（顕在化）をさらに加速



# デジタルトランスフォーメーション (DX)



社内への価値創出をベースに、  
お客様への価値提供に注力

戦略	目標	活動レビュー
<p>Digital Transformation</p>	<p>社内への価値</p> <p>↓</p> <p>お客様への価値</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITアプリケーションのグローバル最適化プロジェクト推進 →FY19で10%以上削減</li> <li>データレイクとBIツールによるデータドリブン経営の加速 →BIツールを用いたグローバルデータ活用基盤構築完了</li> <li>ITインフラのハイブリッドクラウド化推進 →FY19でクラウド化率40%以上</li> <li>RPAによる社内オペレーションの自動化推進</li> <li>Digital Enterprise Business HQ内に各事業本部のデジタルビジネス化を担うDXプラットフォームセンター設置</li> <li>プラントデータ活用型サービス製品のラインアップ拡充</li> <li>セキュリティサービスビジネスの強化</li> </ul>

# 今後の見通し

- ・FY19業績予想
- ・TF2020経営指標
- ・YOKOGAWAが目指す方向

# 中計2年目の目標 ～FY19業績予想～

◆FY19：中計実現に向けて過去最高益を目指す、  
変革を加速し新たなステージに挑戦していく年

(億円)

	FY17 実績(A)	FY18 実績(B)	FY19 予想(C)	対 FY17 (C-A)	対 FY17 伸長率 (C÷A-1)	
受注高	4,003	4,320	<b>4,300</b>	297	7.4%	
売上高	4,066	4,037	<b>4,200</b>	134	3.3%	
営業利益	327	346	<b>400</b>	73	22.3%	
ROS(%)	8.0	8.6	9.5	+ 1.5pt	-	
親会社株主に帰属 する当期純利益	214	284	<b>290</b>	76	35.6%	
EPS(円)	80.27	106.54	<b>108.64</b>	28.37	35.3%	
ROE(%)	8.1	10.1	<b>9.7</b>	+ 1.6pt	-	
為替レート	1米ドル=	110.70円	111.07円	<b>110円</b>	▲0.70円	▲0.6%

## リスクはあるが、中間地点としては堅調に推移と認識（特に受注） 変革の集大成に向けさらに加速し、早期に「成長フェーズ」へ

### ▶ ポイント

- 注力分野の拡大と市場を上回る成長実現
- 市場環境に左右されない収益性向上の実現
- 注力分野への戦略的なリソース投入
- 利益成長、資本効率向上による最大限のキャッシュ創出

### ▶ 目標

受注・売上成長	3～5%/年
EPS成長	7～9%/年*1
ROS	10%以上 (FY20)
ROE	10%以上 (FY20)
オーガニックFCF*2	850億円以上 (3年累計)

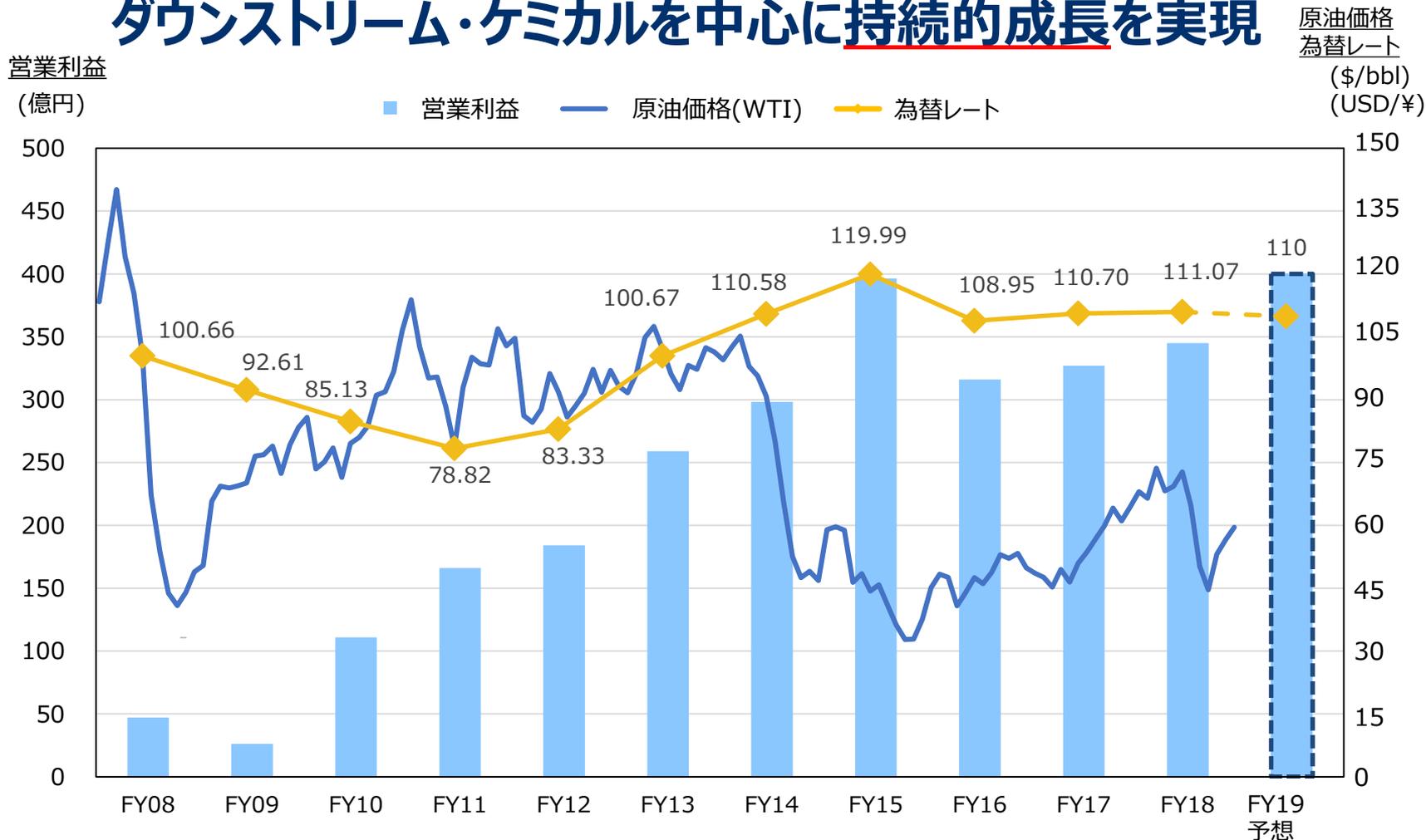
想定為替レート（1米ドル）：110円

\*1 成長率は、FY17の一時要因を除いた実質ベース  
 （のれん等減損、貸倒引当金計上、資産売却等）

\*2 **オーガニックFCF**：  
 フリーキャッシュフロー（FCF）+ 戦略投資（3年累計700億円）

# 目指す姿：変化に耐えうる強靱な収益構造（レジリエンス）

原油価格や為替に左右されず、非エネルギー系や  
ダウンストリーム・ケミカルを中心に持続的成長を実現

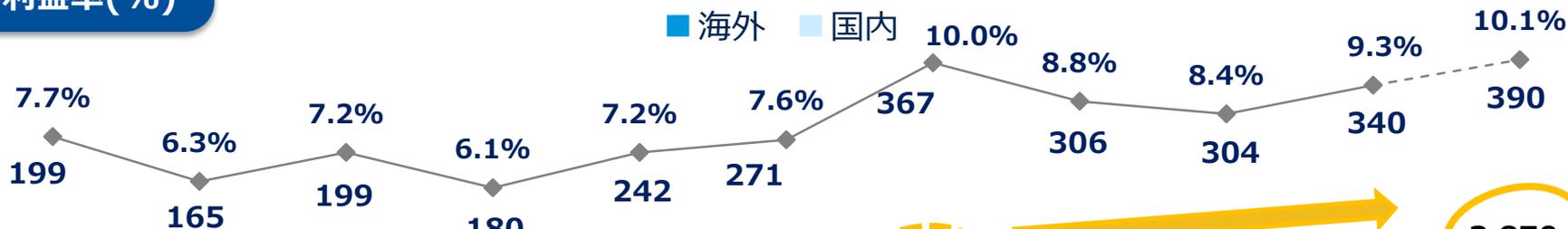


# 制御国内海外 売上高/営業利益/利益率推移

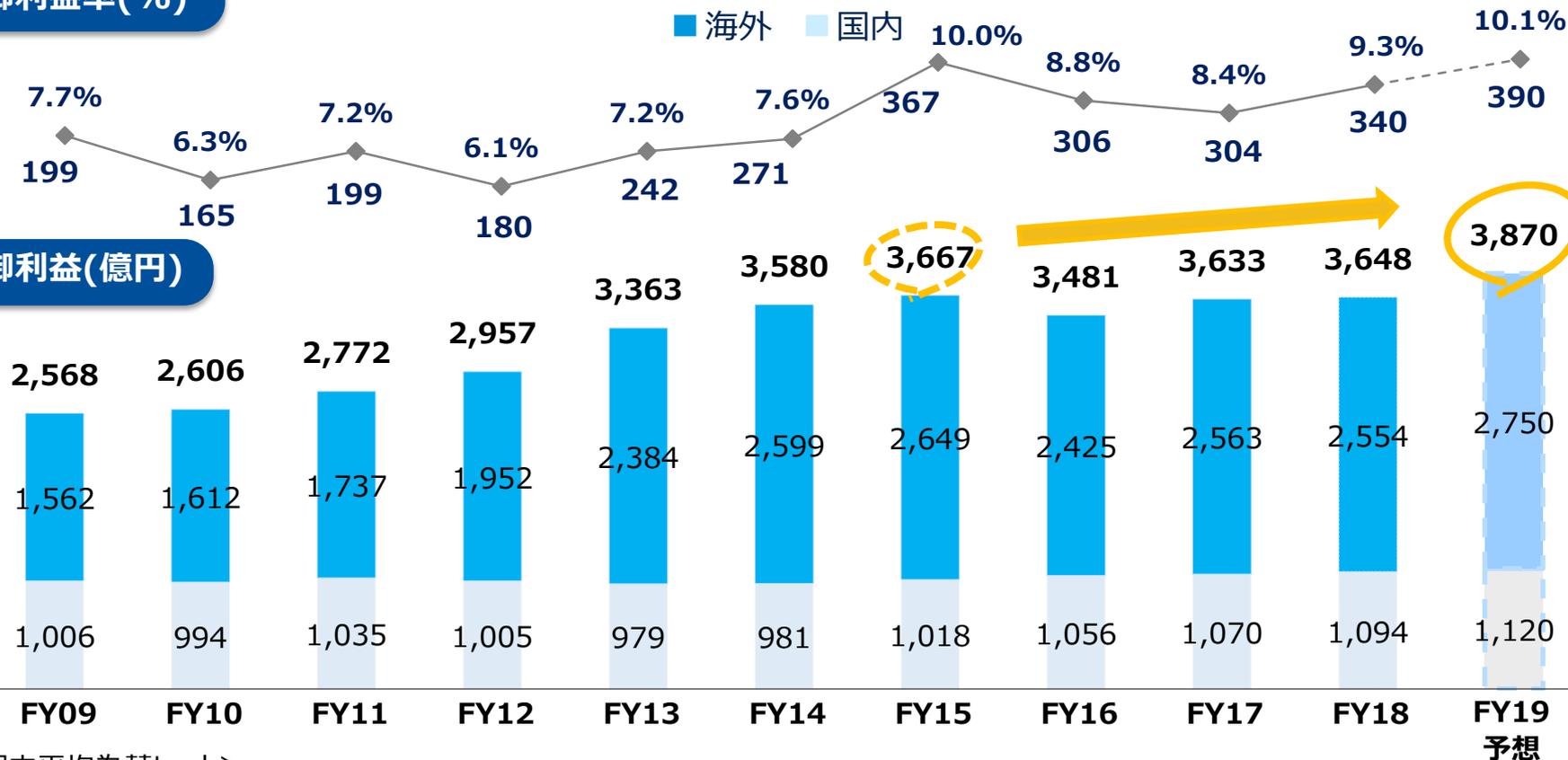
円高だが制御の売上高は、4年ぶりに過去最高を更新する

(単位：億円)

制御利益率(%)



制御利益(億円)



<期中平均為替レート>

USD/円(¥)	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19予想
	92.61	85.13	78.82	83.33	100.67	110.58	119.99	108.95	110.70	111.07	110.00

# YOKOGAWAが目指す方向

- 中長期的視点での経営
- 「成長」と「効率化」の両面に、「変革」しながら挑戦
- 社会・環境・経済の課題を解決し、事業価値を向上させ、結果として「企業価値の最大化」を目指す

Transformation 2020

中期経営計画

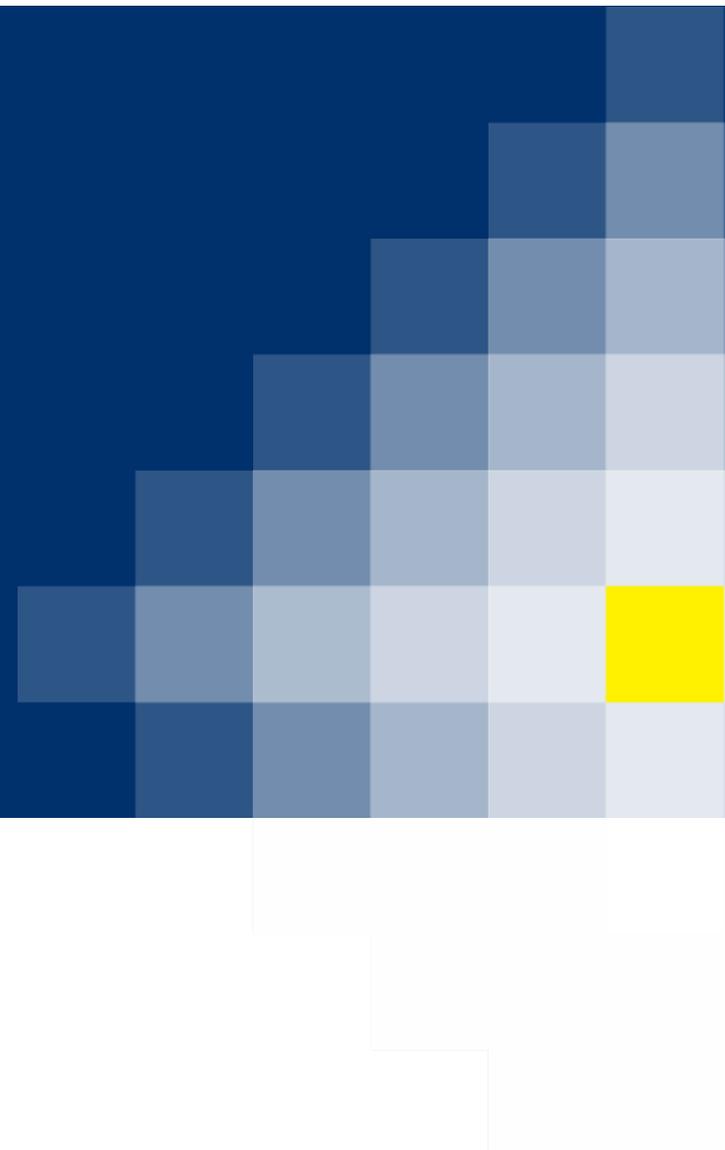
「成長機会の創出」と「成長基盤の確立」

持続可能社会実現への貢献



YOKOGAWAは、未来世代のより豊かな人間社会のために、2050年に向けて、Net-zero emissions, Circular economy, Well-beingの実現を目指します。

Co-innovating tomorrow™



# <ご参考> 制御事業のソリューション

## “Automation Supplier”から“Trusted Partner”へ



Operational Technology



Information Technology

# <ご参考>トピックス (8/7~11/5)

8月

YOKOGAWAレポート2019を発行  
<https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/shiryo/annual-ja/>

お客様のさまざまな圧力計測ニーズを支援するデジタル圧力計「MT300」発売  
フィールドサービスおよびプラント保全の作業管理を専門とする英国RAP Internationalを買収

9月

横河医療ソリューションズ株式会社の全株式を富士フィルム株式会社に譲渡  
「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジア・パシフィック・インデックス  
(DJSI Asia Pacific)」の構成銘柄に3年連続、8回目の選定



操業最適化支援ソリューション「Dynamic Real Time Optimizer」の提供を開始  
現場での作業効率改善をサポートするマルチファンクションプロセスキャリブレータ  
「CA500/CA550」発売

10月

サステナビリティレポート2019を発行  
<https://www.yokogawa.co.jp/about/yokogawa/sustainability/report/>  
オランダのExRoboticsと協業～点検ロボットハードウェアとソフトウェアプラットフォームを  
グローバルで販売・導入するライセンス契約を締結～



シンガポール公益事業庁からローワーセレーター浄水場向けにプラント・シミュレーション・プロジェクトを受注

※日付は発表月です

# <ご参考> YOKOGAWAが採用されているESG関連インデックスなど

2019年11月現在

DJSI-Asia Pacific  
FTSE4Good Index Series  
MSCI ESG Leaders Indexes  
FTSE Blossom Japan Index  
MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数  
MSCI 日本株 女性活躍指数  
SNAMサステナビリティ・インデックス  
CDP  
S&P/JPXカーボンエフィシエント指数  
世界で最も持続可能な100社 (Global 100)



MEMBER OF  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**



In collaboration with



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan



2019 Constituent  
MSCI ESG  
Leaders Indexes



2019 Constituent  
MSCI ジャパンESG  
セレクト・リーダーズ指数



2019 Constituent  
MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

THE INCLUSION OF YOKOGAWA ELECTRIC CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF YOKOGAWA ELECTRIC CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.  
THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用すること等を禁じます。

また、本資料には企業連結に係る暫定的な会計処理の確定および税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴う過年度遡及修正を反映しておりません。(決算短信とは軽微な相違があります)

## 横河電機株式会社

財務・IR部 IR課

Email : [Yokogawa\\_Electric\\_IR6841@cs.jp.yokogawa.com](mailto:Yokogawa_Electric_IR6841@cs.jp.yokogawa.com)

TEL : 0422-52-6845

URL : <https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/>